

海況・サバ・イワシ・マアジ長期漁海況予報

平成29年12月21日に平成29年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報（平成30年1月～6月の見通し）が発表されましたので、その結果を基に本県海域での状況を予報します。

■ 海況

黒潮：A型で推移する。流路は伊豆諸島付近を北上する。
平成29年8月下旬に大蛇行になった。

沿岸水温：相模湾及び伊豆諸島北部海域は「平年並」～「高め」で推移する。暖水波及時に「極めて高め」となる。

（語句説明）平年並：平年値±0.5℃程度、
高め：平年値+1.5℃程度
低め：平年値-1.5℃程度

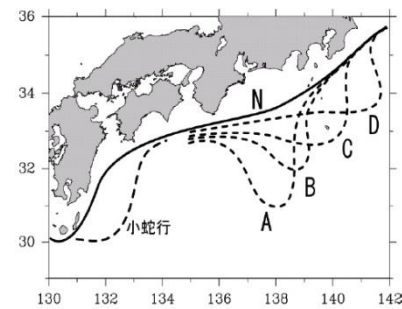


図1 黒潮流型の分類

■ さば類（マサバ、ゴマサバ）

●伊豆諸島海域（たもすくい）

来遊量：前年並。

（説明）マサバ太平洋系群の資源量の増加を受けて、マサバを主体とした好漁が期待されます。漁場は、漁期当初は三宅島周辺、盛漁期には銭洲周辺にも形成されるでしょう。魚体は、マサバは尾叉長30～34cm（400g前後）主体、ゴマサバは28～32cm（300g前後）主体で、前年同様に小ぶりな個体が多くなる見込みです。



●相模湾・東京湾（定置網、釣り）

来遊量：現時点での予測は困難。

（説明）相模湾・東京湾のさば類の来遊量は海況の影響を受けて変動するため、太平洋系群の資源動向とは必ずしも一致せず、現時点での予測は困難です（太平洋系群の資源量が多くても、本県沿岸では獲れない年があります）。なお、平成30年6月、8月には海況のデータをもとに相模湾・東京湾へのマサバ来遊量を予測する「沿岸さば漁況予報」を公表する予定です。

■ マイワシ

来遊量：前年並。

（説明）マイワシ太平洋系群の資源量は、2010年以降増加しており、太平洋側各地で漁獲量が増加傾向にあります。

なかでも2015年級群は近年にない卓越年級群（生き残りが多い年級群）とされており、その後の2016年級群、2017年級群も資源量が多いとされています。

一方でここ2年、資源量が多いはずの明け1歳魚が上半期に相模湾に殆ど来遊しない状況が続いており、大羽イワシも昨年は3月に一度まとまった来遊があっただけでした。

2018年1月～6月は、昨年8月下旬からの黒潮大蛇行が継続すると予測されていることから、黒潮からの内則反流によってマイワシが沖合海域から相模湾に来遊することが期待されます。



■ カタクチイワシ

来遊量：前年並。

（説明）カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2004年以降減少しており、特に黒潮親潮移行域等、沖合域での分布量の減少が顕著になっています。魚体も高水準期を支えた大型成魚（体長12cm以上）の来遊が激減しており、未成魚～小型成魚が主体となってきています。

2018年1月～6月は、前年同様、資源量が少ないことから、5月～6月を盛漁期としながらも全般的には低調な漁模様となるでしょう。



■ マアジ

来遊量：前年を上回る。

（説明）マアジ太平洋系群の資源量は、1997年以降減少傾向で、相模湾沿岸定置網での漁獲量も2009年以降減少傾向となり、近年は低位で横ばい傾向です。

例年、上半期に相模湾へ来遊するマアジは1歳魚が主体となります。東シナ海由来の2017年級群の来遊はあまり期待できませんが、相模湾での2017年下半年期のマアジ0歳魚漁獲量が昨年を上回ったことから、2018年1月～6月の漁獲量は前年を上回ると予測されます。

